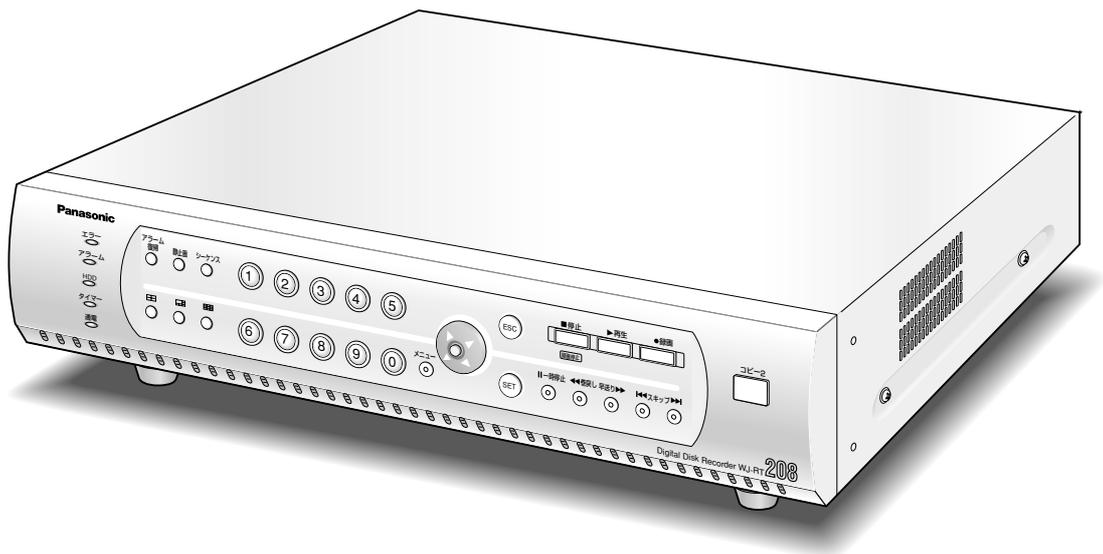


Panasonic®

WJ-RT208 モニタリングシステム 取扱説明書

デジタルディスクレコーダー

品番 WJ-RT208 シリーズ



はじめに

商品概要

WJ-RT208Monitoring System（以下、本ソフトウェア）は、デジタルディスクレコーダー（WJ-RT208シリーズ）の各種機能の操作や設定をパーソナルコンピュータ（以下、PC）からネットワークを経由して行うためのソフトウェアです。

WJ-RT208シリーズ（以下、レコーダー）とは以下のものを総称しています。

- WJ-RT208/1：HDD4台搭載
- WJ-RT208/2：HDD8台搭載

本ソフトウェアは以下のアプリケーションで構成されています。

●NetClient

本ソフトウェアの主な機能はこのNetClientで行います。本ソフトウェアを使用する場合、まずこのNetClientを起動して操作を行います。NetClientの機能は以下のとおりです。

- カメラのライブ画像の確認
- レコーダーの録画画像の再生
- レコーダーへのログイン／ログアウト
- レコーダーのシステム設定
- レコーダーのファームウェアのアップデート
- レコーダーの再起動
- カメラのライブ画像のフレーム再生
- 本ソフトウェアの各種設定
- LocalPlaybackの起動
- USBClientの起動
- 録画画像のダウンロード（PCのHDD内に保存）
- システム機器構成（マップ）の表示
- カメラ画像のシーケンス表示
- 音声通話

●LocalPlayback

PCのHDD内にダウンロードされた録画画像を再生します。LocalPlaybackはNetClientから起動することもできます。

●USBClient

PCに接続された外付けHDDに保存した録画画像を再生します。また、外付けHDDに保存した録画画像をPCにダウンロード（コピー）することもできます。

USBClientはNetClientから起動することもできます。

●AlarmCenter

レコーダーのイベント発生時に、イベントの発生日時やイベントの種類などのイベント情報を確認できます。また、カメラの情報、NetClientの接続ユーザー情報やディスク情報なども確認できます。

●SetRecorderTime

同じモニタリングシステム上にある複数台のレコーダーの日時をPCと同じ時刻に合わせます。

本書について

取扱説明書は、レコーダーの取扱説明書と本書（WJ-RT208モニタリングシステム取扱説明書（PDFファイル））の2部構成になっています。

本書は本機をネットワークを経由してPCから操作するにあたって必要な機能の設定方法や、操作方法について説明します。

本機の設置・接続方法、前面にあるボタンを使った操作方法については、レコーダーの取扱説明書をお読みください。

PDFファイルをご覧になるためには、アドビシステムズ社のAdobe® Reader®日本語版が必要です。PCにAdobe® Reader®日本語版がインストールされていないときは、アドビシステムズ社のホームページから最新のAdobe® Reader®日本語版をダウンロードし、インストールしてください。

必要なPCの環境

PCで本機を操作するためには以下の環境を持つPCを推奨します。推奨外のPCを使用した場合には、画面の描画が遅くなったり、ブラウザが操作できなくなるなどの不具合が発生するおそれがあります。

OS	Microsoft® Windows® 2000 Professional SP4日本語版 Microsoft® Windows® XP Professional SP2日本語版 Microsoft® Windows® XP Home Edition SP2日本語版
コンピューター	IBM PC/AT互換機
CPU	Pentium® 4 2.4 GHz以上
メモリ	512 MB以上
画面	1024×768ピクセル以上の解像度、HIGH color 24ビット以上
インターフェース	10/100 Mbpsのネットワークインターフェースカードが内蔵されていること
その他	Direct X 8.0a以上

メモ

- グラフィックメモリが32 MB以下の場合、本ソフトウェアを使用してレコーダーに同時にアクセスできるのは4チャンネルのみです。
- ディスプレイドライバがオーバーレイに対応していない場合、本ソフトウェアは起動しない場合があります。
- 本ソフトウェアはディスプレイドライバのバージョンによっては起動しない場合があります。その場合は最新のディスプレイドライバにアップデートしてください。

商標および登録商標について

- Adobe®、Adobeロゴ、Acrobat®、Adobe® Reader®は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows® XPは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他、本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

略称について

このドキュメントでは以下の略称を使用しています。

Microsoft® Windows® 2000 Professional ServicePack4 日本語版をWindows2000と表記しています。
Microsoft® Windows® XP Professional SP1a日本語版、SP2日本語版、Microsoft® Windows® XP Home Edition SP1a日本語版、SP2日本語版をWindowsXPと表記しています。

著作権について

本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約書に基づいて提供され、その内容に同意する場合のみ使用することができます。本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、並びに輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

免責について

弊社は如何なる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ②お客様の誤使用や不注意による損害または本商品の破損等
- ③お客様による本製品の逆コンパイル、逆アセンブルが行われた場合
- ④デジタルディスクレコーダーからダウンロードした設定データ等のパソコンにおける消失、あるいは漏洩等によるいかなる損害、クレーム等

個人情報の保護について

本機を使用したシステムで撮影された本人が判別できる情報は、「個人情報の保護に関する法律」で定められた「個人情報」に該当します。※

法律に従って、映像情報を適正にお取り扱いください。

※経済産業省の「個人情報の保護に関する法律についての経済産業分野を対象とするガイドライン」における【個人情報に該当する事例】を参照してください。

もくじ

はじめに

商品概要	2
本書について	2
必要なPCの環境	3
商標および登録商標について	3
略称について	3
著作権について	4
免責について	4
個人情報の保護について	4

準備

インストールする	8
NetClientを起動する	9
操作画面について	9
画像表示エリア	9
画面数選択ボタン	9
画面選択エリア	10
システム制御ボタン	10
レコーダー情報エリア	11
レコーダーの接続に関する設定	12

NetClient

カメラのライブ画像を見る	13
1画面で表示する	13
多画面で表示する	15
カメラ画像を切り替える	15
カメラCHの状態を確認する	15
カメラを操作する	16
コントロールパネルを表示する	16
表示されているカメラ画像をPCに保存する	16
表示されているカメラ画像をキャプチャーする	16
音声をミュート（消音）する	17
パン・チルト、ズーム、フォーカス操作を行う	17
カメラ画像をフルスクリーンで表示する	17
カメラとの接続を切る	18

NetClient

レコーダー内の録画画像を再生する (リモート再生) ...	19
リモート再生中の操作	20
リモート再生を停止する	21
システム制御ボタンで行う操作.....	22
レコーダーにマネージャーとしてログインする	22
レコーダーの設定を行う	23
レコーダーのシステム設定を行う [レコーダー設定]	23
レコーダーの録画設定を行う [レコーダー録画設定]	24
レコーダーの録画の開始/停止を行う [レコーダー録画制御]	24
外部出力の設定を行う [外部出力制御]	25
レコーダーの情報履歴を確認する [レコーダーログ]	25
レコーダーのバージョン情報を確認する [レコーダーバージョン情報] ..	25
レコーダーのソフトウェアをアップデートする	26
レコーダーを再起動する	26
カメラのライブ画像をフレーム再生する	27
本ソフトウェアの各種設定を行う	28
レコーダーを登録する [モニターシステム設定-レコーダー登録]	28
自動切断設定を行う [モニターシステム設定-自動切断設定]	30
シーケンス動作の設定を行う [モニターシステム設定-シーケンス表示設定]	30
マップを設定する [モニターシステム設定-マップ設定]	31
カメラ画像に表示される情報を設定する [モニターシステム設定-表示設定]	32
本ソフトウェアのバージョン情報を確認する [モニターシステム設定-バージョン情報]	32
モニターシステムの情報履歴を確認する [モニターシステムログ]	33
ローカル再生を行う	33
外付けHDDを操作する	33
録画画像をダウンロードする	34
システム機器構成 (マップ) を表示する	36
カメラ画像をシーケンス表示する	37
音声通話する	37

LocalPlay back

ローカル再生を行う [LocalPlayback]	38
LocalPlaybackを起動する	38
画像を再生する	39
画像を検索して再生する	39

USBClient

外付けHDDを操作する [USBClient]	41
USBClientを起動する	41
コピーレコードをコピーする	42
コピーレコードを再生する	43

Alarm Center

アラームセンターを設定する [AlarmCenter] ..	45
AlarmCenterを起動する	45
アラームセンターのポート番号を設定する	46
アラームセンター情報を確認する	47
AlarmCenterを終了する	48

SetRecorder Time

レコーダーの時計を同期させる [SetRecorderTime] .	49
SetRecorderTimeを起動する	49
時刻合わせの間隔を設定する	50
SetRecorderTimeを終了する	50

その他

故障かな!?	51
--------	----

インストールする

本ソフトウェアをインストールします。
インストールはダイアログボックスの指示に従って行います。

STEP1

RT208シリーズに付属されているCD-ROMをPCのCD-ROMドライブにセットします。

STEP2

CD-ROM内のインストーラー「RT208Setup.exe」をダブルクリックします。
→インストーラーが起動します。

STEP3

画面の指示に従ってインストールを行います。
標準設定のままインストールすると、「C:¥Program Files¥Panasonic¥WJ-RT208 Monitoring System」フォルダが作成され、インストールされます。インストールが完了すると、実行ファイルがスタートメニューに登録されます。また、ショートカットがデスクトップに作成されます。

!!重要!!

- WindowsXP SP2のPCで本ソフトウェアを起動すると、以下のセキュリティ警告のメッセージが表示される場合があります。
「コンピューターを保護するため、このプログラムの機能の一部がWindowsファイアウォールでブロックされています。」この場合、[ブロックを解除する] ボタンをクリックしてください。間違えて、[ブロックする] ボタンをクリックしてしまったときは、以下の操作を行ってください。
 1. [コントロールパネル] - [セキュリティセンター] を選択します。
 2. [Windows ファイアウォール] を選択して、[例外] タブをクリックします。
 3. 本ソフトウェアのチェックボックスがチェックされているかどうか確認します。
チェックされていたら、[OK] ボタンをクリックします。これらの操作を行うことで、他のアプリケーションやセキュリティレベルに影響を受けることはありません。

アンインストールするときは

本ソフトウェアをアンインストールするときは、以下の手順で操作します。

STEP1

[コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
→プログラムの追加と削除画面が表示されます。

STEP2

「WJ-RT208 Monitoring System」を選択し、[変更と削除] ボタンをクリックします。
以降、画面の指示に従って操作します。

NetClientを起動する

STEP1

スタートメニューの [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [WJ-RT208 Monitoring System] - [NetClient] を選択するか、デスクトップにある  (NetClientのアイコン) をダブルクリックします。

→本ソフトウェアが起動し、操作画面（以下参照）が表示されます。

準備

操作画面について

本ソフトウェアを起動すると、以下の操作画面が表示されます。
起動直後は、画像表示エリアが9画面に分割して表示されます。



画像表示エリア

カメラのライブ画像、レコーダー内の録画画像を表示します。各エリア番号は、上段の左端から順に1、2、3、中央の段の左端から順に4、5、6、下段の左端から順に7、8、9となります。

画面数選択ボタン

9台までのカメラの画像を同時に多画面で表示できます。

(1画面ボタン)

：選択されている画像表示エリアのカメラ画像を1画面で表示します。

(4画面分割ボタン)

：画像表示エリア1～4のカメラ画像を4画面に分割して表示します。

(6画面分割ボタン)

：画像表示エリア1～6のカメラ画像を6画面に分割して表示します。

(9画面分割ボタン)

：画像表示エリア1～9のカメラ画像を9画面に分割して表示します。

操作画面について（つづき）

画面選択エリア



上段のアイコンは表示されているカメラCHの状態を表します。アイコンについては15ページをお読みください。

下段の数字ボタンは1画面で表示するカメラ画像を選択するボタンです。クリックすると、選択したエリアに表示されているカメラCHのライブ画像が1画面で表示されます。

準備

システム制御ボタン



システム制御ボタンは本ソフトウェアの各種機能を起動したり、設定を行うメニューを表示するボタンです。システム制御ボタンで操作を行うにはレコーダーに「マネージャー」としてログインしないと使用できない機能があります。ログインのしかたについては22ページをお読みください。

システム制御ボタンを使って、以下の操作が行えます。

- レコーダーへのログイン/ログアウト (☞22ページ)
- レコーダーのシステム設定 (☞23ページ)
- レコーダーのファームウェアのアップデート (☞26ページ)
- レコーダーの再起動 (☞26ページ)
- カメラのライブ画像のフレーム再生 (☞27ページ)
- 本ソフトウェアの各種設定 (☞28ページ)
- LocalPlaybackの起動 (☞33ページ)
- USBClientの起動 (☞33ページ)
- レコーダー内の録画画像のダウンロード (PCのHDD内に保存) (☞34ページ)
- システム機器構成 (マップ) の表示 (☞36ページ)
- カメラ画像のシーケンス表示 (☞37ページ)
- 音声通話 (☞37ページ)

レコーダー情報エリア

マネージャーがレコーダーにログインすると、以下のレコーダー情報がリアルタイムに表示されます。



日付・時刻

現在日時が表示されます。

レコーダー名

マネージャーがログインしているレコーダー名が表示されます。

ユーザー情報

現在レコーダーにアクセスしているユーザーに関する以下の情報が表示されます。

- IPアドレス
- タイプ
タイプには次の6つがあります。

Monitor : カメラのライブ画像表示
Control : 「マネージャー」でログイン
Backup : カメラ画像のダウンロード
Talk : 音声通話
Frame : フレーム再生
Netplay : レコーダーの録画画像の再生

● ユーザーレベル

ユーザーレベルには次の3つがあります。

Viewer : ビューワーユーザーの権限でログイン
Operator : オペレーターユーザーの権限でログイン
Manager : マネージャーユーザーの権限でログイン

● ログイン時間

カメラ状態

カメラの以下の情報が表示されます。

- カメラ名
- 状態
空白 : 録画やネットワーク接続を行っていない状態
録画 : レコーダーでカメラCHの録画を行っている状態
接続 : ネットワーク接続を行っている状態
録画+接続 : 録画とネットワーク接続を行っている状態
- イベント
マニュアル : レコーダーでマニュアル録画中
タイマー : レコーダーでタイマー録画中
端子 : レコーダーで端子入力録画中
VMD : レコーダーでVMD録画中
- カメラ画像の信号の有無 (あり/なし)

アラーム情報

レコーダーのアラーム情報の履歴 (イベントの種類やイベントが発生したカメラCH、アラーム発生日時など) が表示されます。アラーム情報の履歴にはレコーダーのイベントログと同じ内容が表示されます。詳しくはレコーダーの取扱説明書をお読みください。

アラーム受信

イベント発生と終了が表示されます。

ディスク情報

レコーダーのHDD容量と使用割合 (%) が表示されます。

レコーダーの接続に関する設定

操作画面で操作を行う前に、まずPCとレコーダーの接続に関する設定を行う必要があります。
設定のしかたについては、28ページの「レコーダーを登録する [モニターシステム設定-レコーダー登録]」をお読みになり、設定を行ってください。

メモ

- レコーダーとPCの接続工事については、レコーダーの取扱説明書をお読みください。
-

カメラのライブ画像を見る

カメラの画像をライブで表示し確認します。カメラのライブ画像は1画面または多画面で表示できます。

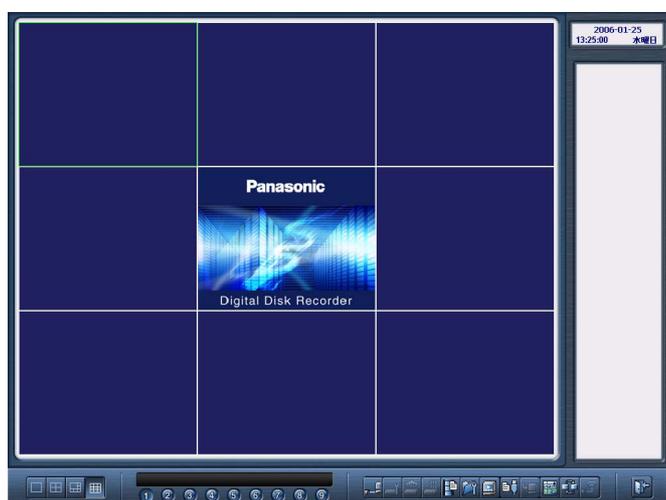
1画面で表示する

カメラのライブ画像を1画面で表示します。

カメラ画像を表示するには、まずレコーダーとカメラに接続し、表示するカメラCHを選択する必要があります。

画面1

操作画面で操作します。



STEP1

画像表示エリアの画像が表示されていないエリアを右クリックします。

画面2

ポップアップメニューが表示されます。



STEP2

[接続] を選択します。

画面3

接続画面が表示されます。



STEP3

接続するレコーダーとカメラCHを選択します。「カメラ名」で「全て」を選択すると、カメラ画像が表示されていないエリアにカメラCH1から順に接続できます。

メモ

- レコーダーを選択するには、あらかじめレコーダーを登録しておく必要があります。詳しくは28ページをお読みください。

<次ページに続く>

カメラのライブ画像を見る（つづき）

!!重要!!

- 接続するユーザーレベルによって、操作できる機能に制限があります。レコーダーの設定によっては、ビューワー、オペレーターで接続した場合は、カメラ画像を表示できないようにすることもできます。また、カメラ操作はマネージャーで接続した場合にのみ可能です。お買い上げ時、パスワードは以下のように入力されています。
マネージャー：888888
オペレーター：88888
ビューワー：8888

STEP4

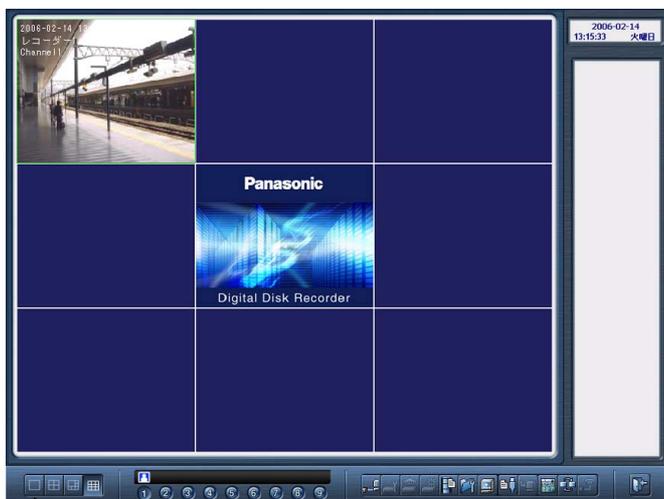
パスワードを入力します。

STEP5

[接続] ボタンをクリックします。

画面4

接続の状況を示す画面が表示され、接続が完了すると、選択したエリアにカメラ画像が表示されます。

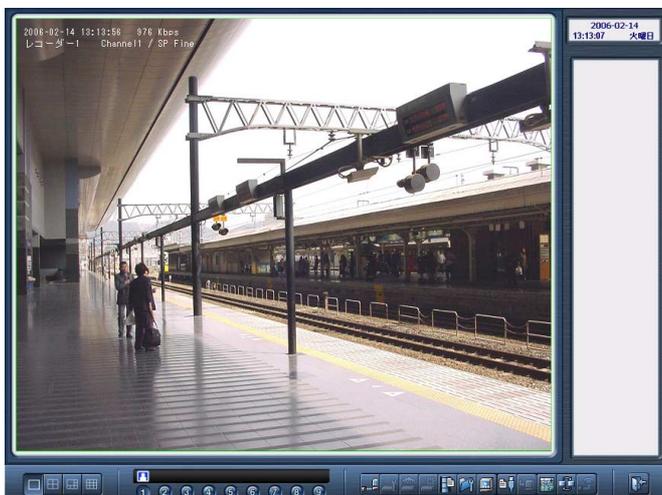


STEP6

1画面ボタンをクリックします。

画面5

選択したカメラCHの画像が1画面で表示されます。



多画面で表示する

カメラの画像を多画面（4／6／9画面）に分割して表示します。

最初に「1画面で表示する（13ページ）」のSTEP1～STEP5の操作を各エリアに対して行います。

その後、以下の画面数選択ボタンをクリックして、表示画面数を切り替えます。

（4画面分割ボタン）：画像表示エリアの1～4のカメラ画像を4画面に分割して表示します。

（6画面分割ボタン）：画像表示エリアの1～6のカメラ画像を6画面に分割して表示します。

（9画面分割ボタン）：画像表示エリアの1～9のカメラ画像を9画面に分割して表示します。

カメラ画像を切り替える

カメラ画像を他のCHのカメラ画像に切り替えます。

画面選択エリアのボタンをクリックすると、選択したエリアの画像が1画面で表示されます。

多画面表示中でもこのボタンをクリックすると、選択したエリアのカメラ画像が1画面で表示されます。



カメラCHの状態を確認する

各画像表示エリアのカメラCHの状態をアイコンで表示します。

（何も表示されない）：カメラのライブ画像の表示や再生ができます。

：カメラのライブ画像が表示されています。アイコンが点滅表示している場合、シーケンス動作中であることをあらわしています。

：再生が行われています。

：カメラ画像を保存しています。このアイコンが点滅表示している場合、アラーム録画中であることをあらわしています。アラーム録画については29ページをお読みください。

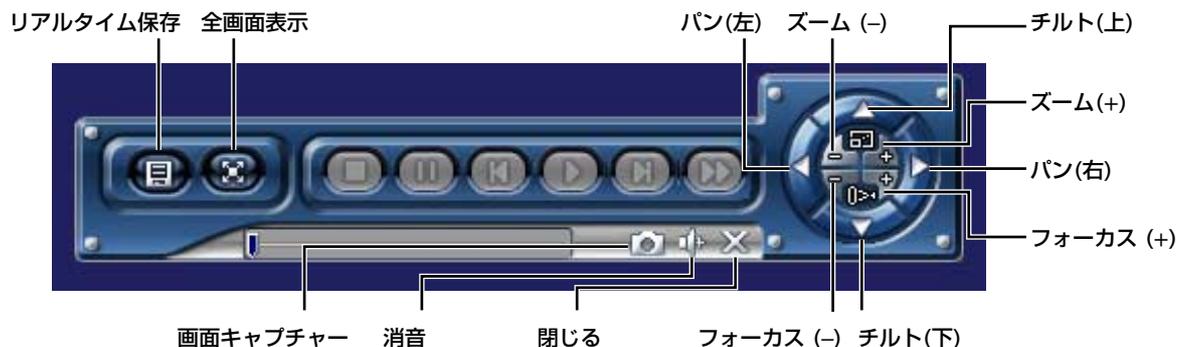
：アラームが発生しています。

カメラを操作する

パン・チルト、ズーム、フォーカスなどのカメラの制御やカメラ画像の保存、静止画のキャプチャーはコントロールパネルを表示して行います。

コントロールパネルを表示する

画像表示エリアのカメラ画像をダブルクリックすると、以下のコントロールパネルが表示されます。



表示されているカメラ画像をPCに保存する

[リアルタイム保存] ボタンをクリックすると、表示されているカメラ画像の保存が開始されます。ボタンの状態によって、保存の状態が以下のように表示されます。

- : 保存していないとき
- : 保存中
- : 操作不可

保存した画像はWJ-RT208 Monitoring SystemがインストールされているフォルダのMPEGフォルダ内に保存されます。

メモ

- 保存したファイルが500 MBを超えた場合、ファイルは自動的に分割されます。

表示されているカメラ画像をキャプチャーする

[画面キャプチャー] ボタンをクリックすると、表示されているカメラ画像をキャプチャーし、静止画として保存できます。

操作の可否は以下のように表示されます。

- : 操作できます。
- : 操作できません。

キャプチャーされた画像は、WJ-RT208 Monitoring SystemがインストールされているフォルダのPictureフォルダ内に保存されます。

音声をミュート（消音）する

[消音] ボタンをクリックすると、音声をミュート（消音）します。ミュートのON/OFFは以下のように表示されます。

 : ミュートがOFFの状態です。音声聞こえます。

 : ミュートがONの状態です。音声は聞こえません。

パン・チルト、ズーム、フォーカス操作を行う

コントロールパネルの右側にある各ボタンをクリックして操作します（ 16ページ）。

パン・チルト : カメラ画像の水平／垂直位置を調節します。

ズーム : カメラ画像を拡大／縮小します。

フォーカス : カメラ画像の焦点を調節します。

!!重要!!

- パン・チルト、ズーム、フォーカス操作を行うには「マネージャー」のパスワードで接続する必要があります。詳しくは13、14ページをお読みください。

カメラ画像をフルスクリーンで表示する

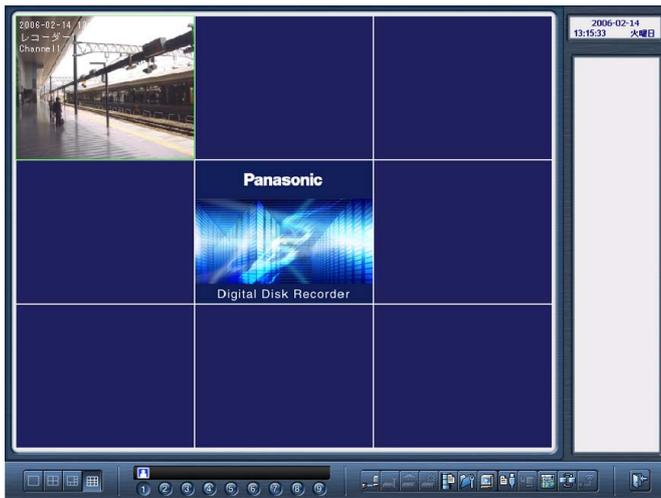
[全画面表示] ボタンをクリックすると、カメラ画像がフルスクリーンで表示されます。再度クリックすると、元のサイズに戻ります。

カメラとの接続を切る

カメラとの接続を切断します。

画面1

操作画面で操作します。



STEP1

接続を切断したいカメラCHのカメラ画像で右クリックします。

画面2

ポップアップメニューが表示されます。



STEP2

[切断] を選択します。
→カメラとの接続が切断されます。

レコーダー内の録画画像を再生する（リモート再生）

レコーダー内に録画されている画像を再生します（リモート再生）。再生するには、レコーダーに「マネージャー」としてログインしておく必要があります。ログインのしかたについては22ページをお読みください。

!!重要!!

- レコーダーで再生またはコピーしている画像はリモート再生できません。

画面1

操作画面で操作します。



STEP1

画像表示エリアの画像が表示されていないエリアを右クリックします。

画面2

ポップアップメニューが表示されます。



STEP2

[再生] を選択します。

画面3

検索画面が表示されます。



STEP3

STEP3

以下の検索条件を設定します。

カメラ

検索したいカメラCHにチェックを入れます。

イベントのみ

イベント発生時の録画画像（タイマー録画、端子入力録画、VMD録画）のみ検索する場合はチェックを入れます。

開始日時・終了日時

録画開始日時と終了日時を入力します。その間に録画されている画像を検索します。

STEP4

STEP4

設定したら、[OK] ボタンをクリックします。

レコーダー内の録画画像を再生する（リモート再生）（つづき）

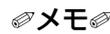
画面4

検索結果画面が表示されます。



STEP5

再生したい録画画像を選択します。

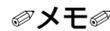


- Ctrlキーを押しながらクリックすると、複数の録画画像が選択できます。

STEP6

[再生開始] ボタンをクリックすると、選択した録画画像が再生されます。

再生時の操作については以下をお読みください。



- 最新5 000件までの録画画像のリストが表示されます。

リモート再生中の操作

リモート再生中の操作はコントロールパネルで行います。

画像表示エリアのカメラ画像をダブルクリックすると、以下のコントロールパネルが表示されます。



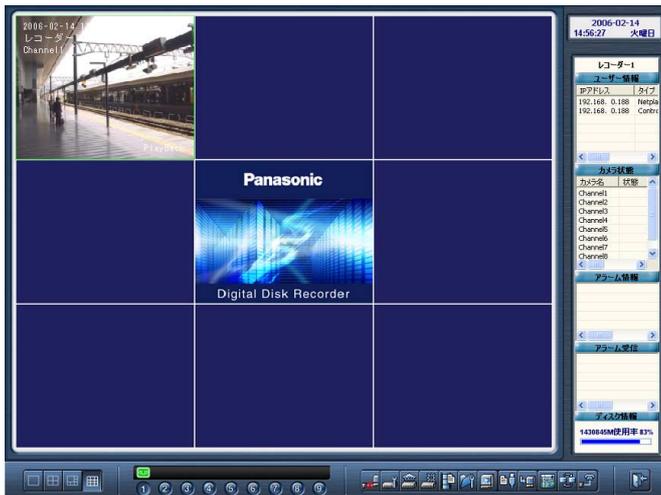
- [停止] ボタン : 再生を停止します。
- [一時停止] ボタン : 再生を一時停止します。
- [前レコード] ボタン : 検索結果画面で複数の録画画像を選択した場合、このボタンをクリックすると、前の録画画像へ移動します。検索結果画面で複数の録画画像を選択していない場合は、無効になります。
- [再生/コマ送り] ボタン : 再生を開始します。一時停止中にクリックすると、コマ送りします。
- [次レコード] ボタン : 検索結果画面で複数の録画画像を選択した場合、このボタンをクリックすると、次の録画画像へ移動します。検索結果画面で複数の録画画像を選択していない場合は、無効になります。
- [再生スピード] ボタン : クリックするたびに再生速度が以下のように切り替わります。
1倍速→2倍速→4倍速→1/2倍速→1/4倍速→1倍速→2倍速・・・
- 再生位置スライダ : 再生位置をポインターで表示します。現在の再生位置に従ってポインターが移動します。スライダ上をクリックして再生位置を指定することもできます。

リモート再生を停止する

リモート再生を停止し、レコーダーとの接続も切断されます。

画面1

操作画面で操作します。



STEP1

リモート再生を停止したい再生画面上で右クリックします。

画面2

ポップアップメニューが表示されます。

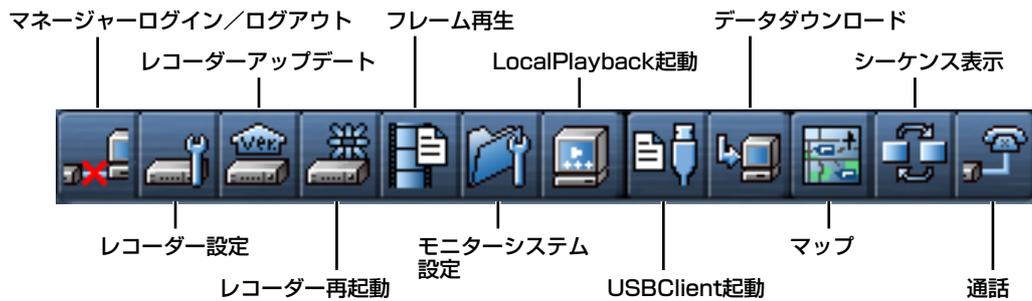


STEP2

[再生停止] を選択します。
→リモート再生が停止し、レコーダーとの接続が切断されます。

システム制御ボタンで行う操作

本ソフトウェアでは、操作画面の下にあるシステム制御ボタンを使って、各種機能を起動したり、設定を行うメニューを表示したりします。ここではシステム制御ボタンを使って、行う操作について説明します。



レコーダーにマネージャーとしてログインする

システム制御ボタンを使って操作を行うには、レコーダーに「マネージャー」としてログインしないと使用できない機能があります。まずは、以下の手順に従ってログインしてください。

メモ

- レコーダーに「マネージャー」としてログインしなくても以下の機能は操作できます。
フレーム再生 (☞27ページ)、モニターシステム設定 (☞28～32ページ)、LocalPlayback起動 (☞33ページ)、USBClient起動 (☞34ページ)、マップ表示 (☞36ページ)、シーケンス表示 (☞27ページ)

画面1

[マネージャー ログイン/ログアウト] ボタンをクリックすると、マネージャー ログイン画面が表示されます。



!!重要!!

- Windows XP SP2のファイヤーウォール設定によっては、レコーダー情報が表示されない場合があります。詳しくは8ページをお読みください。

STEP1

ログインしたいレコーダーを選択し、「マネージャー」のパスワードを入力します。

メモ

- レコーダーを選択するには、あらかじめレコーダーを登録しておく必要があります。詳しくは28ページをお読みください。

STEP2

[ログイン] ボタンをクリックします。
→接続状況を示す画面が表示されます。接続が完了すると、操作画面の右側にレコーダー情報 (☞11ページ) が表示されます。
また、[マネージャー ログイン/ログアウト] ボタンが  から  に変わります。このボタンをクリックすると、ログアウトできます。

レコーダーの設定を行う

レコーダーの各種設定やシステムログ、イベントログ、ソフトウェアのバージョンを表示します。
 [レコーダー設定] ボタンをクリックすると、以下の各メニューがポップアップ表示されます。

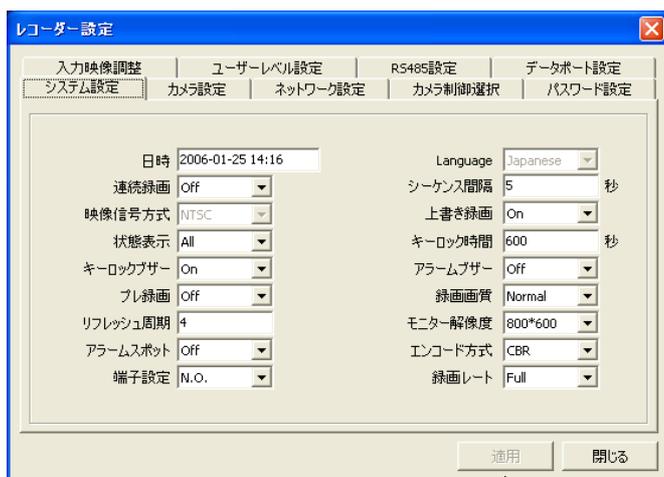
レコーダー設定(U)
レコーダー録画設定(V)
レコーダー録画制御(W)
外部出力制御(X)
レコーダーログ(Y)
レコーダーバージョン情報(Z)

レコーダーのシステム設定を行う [レコーダー設定]

レコーダーのシステムに関する基本的な設定を行います。

画面1

ポップアップメニューの [レコーダー設定] を選択すると、レコーダー設定画面が表示されます。



STEP2

STEP1

設定内容はレコーダーで操作できるSETUP MENUの各項目と同じです。レコーダーの取扱説明書をお読みください。

STEP2

設定したら、[適用] ボタンをクリックします。

メモ

- [カメラ設定] タブではカメラタイトルの設定が行えます (半角カタカナの表示はできません)。

システム制御ボタンで行う操作（つづき）

レコーダーの録画設定を行う【レコーダー録画設定】

録画に関する基本設定とイベント発生時の動作に関する設定を行います。

画面1

ポップアップメニュー（☰23ページ）の【レコーダー録画設定】を選択すると、録画設定画面が表示されます。



STEP1

設定内容はレコーダーで操作できるSETUP MENU【録画/イベント設定】と同じです。レコーダーの取扱説明書をお読みください。

STEP2

設定したら、【適用】ボタンをクリックします。

メモ

- 各カメラCHにすべて同じ録画スケジュールを設定したい場合、1つのカメラCHを設定し、【全カメラにコピー】ボタンをクリックし、その後【適用】ボタンをクリックします。

レコーダーの録画の開始/停止を行う【レコーダー録画制御】

レコーダーのマニュアル録画の開始/停止を本ソフトウェアから行います。

画面1

ポップアップメニュー（☰23ページ）の【レコーダー録画制御】を選択すると、レコーダー録画制御画面が表示されます。



STEP1

録画したいカメラCHにチェックを入れます。

STEP2

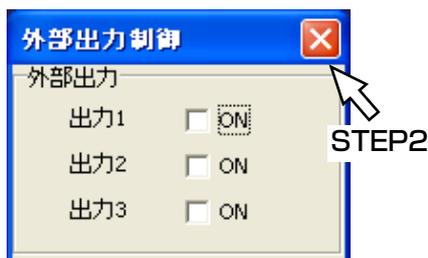
【開始】ボタンをクリックします。
→選択したカメラCHのマニュアル録画が開始されます。録画中はレコーダーに接続されているモニター画面下に【】（録画アイコン）が表示されます。録画中にレコーダー録画制御画面を表示し、録画中のカメラCHのチェックを外し【開始】ボタンをクリックすると、録画が停止されます。

外部出力の設定を行う [外部出力制御]

レコーダー後面のコントロール端子の外部出力の設定を行います。

画面1

ポップアップメニュー (23ページ) の [外部出力制御] を選択すると、外部出力制御画面が表示されます。



STEP1

外部出力を行う出力ピンにチェックを入れます。

STEP2

[X] ボタンをクリックして画面を閉じます。

レコーダーの情報履歴を確認する [レコーダーログ]

レコーダーのシステムログ (システムの動作履歴) とイベントログ (アラーム発生履歴) を確認します。

23ページのポップアップメニューの [レコーダーログ] を選択すると、以下の画面が表示されます。

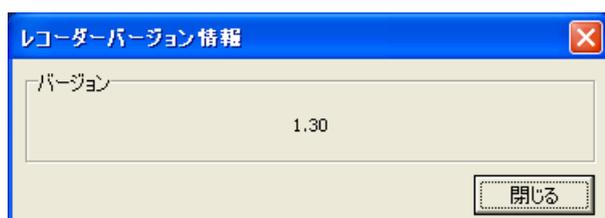
システムログとイベントログの履歴の詳細は、SETUP MENU [ログ情報] と同じです。レコーダーの取扱説明書をお読みください。



レコーダーのバージョン情報を確認する [レコーダーバージョン情報]

レコーダーのソフトウェアのバージョン情報を確認します。

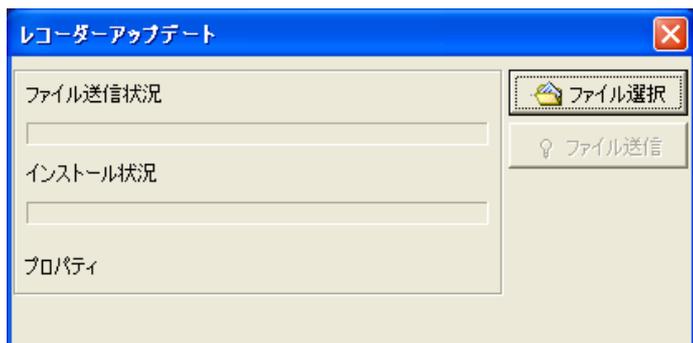
23ページのポップアップメニューの [レコーダーバージョン情報] を選択すると、以下の画面が表示されます。



レコーダーのソフトウェアをアップデートする

レコーダーのソフトウェアをアップデートします。

[レコーダーアップデート] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。



[ファイル選択] ボタンをクリックして、アップデートするファイルを選択します。ファイルを選択すると、ファイルの属性（ファイルサイズと更新日時）が表示されます。[ファイル送信] ボタンをクリックすると、レコーダーに選択したファイルが送信され、アップデートが始まります。

アップデートしたファイルを有効にするには、レコーダーを再起動する必要があります。

レコーダーを再起動する

レコーダーを再起動します。

[レコーダー再起動] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。



[OK] ボタンをクリックすると、「実行しますか?」と再確認の画面が表示され、[OK] ボタンをクリックすると、レコーダーが再起動します。再起動中、PCとレコーダーの接続が切断されますので、レコーダーが再起動したら、再度接続を行ってください。接続のしかたは22ページをお読みください。

メモ

- [モニターシステム設定] - [自動切断設定] で「自動再接続」にチェックを入れておくと、レコーダーの再起動後、自動的にカメラと接続します (※30ページ)。

!!重要!!

- レコーダーを再起動する前に、レコーダーの録画、再生、コピー動作を停止しておいてください。

カメラのライブ画像をフレーム再生する

カメラのライブ画像をフレーム再生します。フレーム再生の切り替え時間は録画レートとリフレッシュ周期で設定します。リフレッシュ周期はレコーダー設定画面の「システム設定」タブ（☞23ページ）で設定します。録画レートはレコーダーの録画状態によって異なります。録画していない、またはマニュアル録画中はレコーダー設定画面の「システム設定」タブ（☞23ページ）で設定した録画レートが適用されます。イベント録画中は録画設定画面の各イベント録画のタブで設定した値が適用されます。

お買い上げ時は録画レートは「Full」、リフレッシュ周期は「4」に設定されており、4秒ごとに画像が切り替わります。

//重要//

- 録画レート、リフレッシュ周期を変更すると、録画画像にも影響します。

画面1

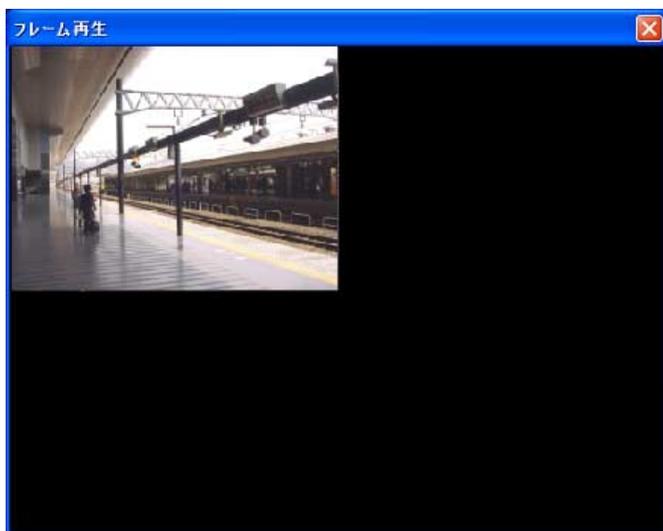
「フレーム再生」ボタンをクリックすると、フレーム再生画面が表示されます。



STEP2

画面2

再生画面が表示され、フレーム再生が開始します。



STEP1

レコーダーとカメラCHを選択し、パスワードを入力します。

STEP2

「OK」ボタンをクリックします。

メモ

- レコーダーを選択するには、あらかじめレコーダーを登録しておく必要があります。詳しくは28ページをお読みください。

STEP3

再生画像で右クリックすると、以下のメニューが表示され、再生中に操作できます。

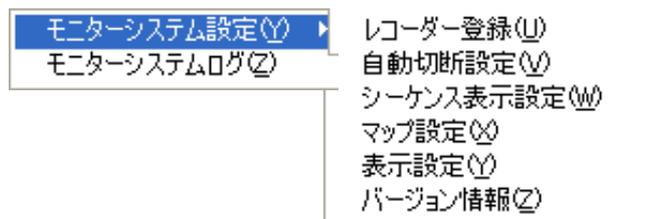
フレーム再生停止 (X)
 全画面表示 (Y)
 通常表示 (Z)

- フレーム再生停止
フレーム再生を停止します。
- 全画面表示
フルスクリーンで表示します。
- 通常表示
フルスクリーンを解除します。

本ソフトウェアの各種設定を行う

本ソフトウェアの各種設定とシステムログ、イベントログの確認を行います。

[モニターシステム設定] ボタンをクリックすると、以下の各メニューがポップアップ表示されます。



本ソフトウェアを使用するのに各種設定を行う場合は [モニターシステム設定] を選択します。

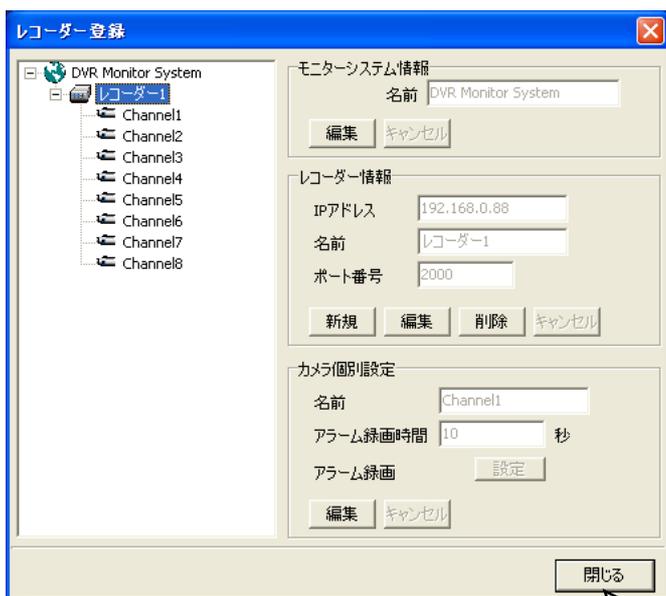
本ソフトウェアのシステムログ、イベントログを確認したい場合は [モニターシステムログ] を選択します。

レコーダーを登録する [モニターシステム設定-レコーダー登録]

本ソフトウェアで操作するレコーダーの登録や、レコーダーのIPアドレスやポート番号などレコーダー情報の設定・変更、各カメラCHのアラーム録画に関する設定を行います。

画面1

ポップアップメニューの [モニターシステム設定] - [レコーダー登録] を選択すると、レコーダー登録画面が表示されます。



STEP2

STEP1

各項目を設定し、レコーダーの登録やレコーダー情報の設定・変更、各カメラCHのアラーム録画に関する設定を行います。

設定項目については次ページをお読みください。

STEP2

設定したら、[閉じる] ボタンをクリックします。

設定項目について

■画面左部

各レコーダー、各カメラCH名が表示されます。レコーダー、カメラCHのアイコンをクリックすると、画面右部にその機器の情報が表示されます。

■モニターシステム情報

モニターシステム名が表示されます。[編集] ボタンをクリックして名前を入力し [OK] ボタンをクリックすると、モニターシステム名を変更できます。

■レコーダー情報

レコーダーの登録、レコーダー情報の変更、削除を行います。

<レコーダーを新規登録する>

[新規] ボタンをクリックし、IPアドレス、名前、ポート番号を入力し [OK] ボタンをクリックします。

<レコーダー情報を変更する>

画面左部からレコーダーを選択して [編集] ボタンをクリックします。IPアドレス、名前、ポート番号を入力して [OK] ボタンをクリックすると、選択したレコーダーの情報が変更されます。

<レコーダーを削除する>

画面左部からレコーダーを選択し [削除] ボタンをクリックし、確認画面で [OK] ボタンをクリックすると、選択したレコーダーが削除されます。

■カメラ個別設定

画面左部で選択したカメラCHの名前、アラーム録画時間が表示されます。[編集] ボタンをクリックして、名前やアラーム録画時間を設定し [OK] ボタンをクリックすると、設定を変更できます。

アラーム録画画像は本ソフトウェアがインストールされているフォルダのMPEGフォルダ内に保存されます。

!!重要!!

- 1つのレコーダー内の複数のカメラCHで同じカメラCH名を設定することはできません。

アラーム録画時間：レコーダーにイベント（端子入力、VMD）が発生した場合に録画を行う時間（10～999秒）を設定します。お買い上げ時は10秒に設定されています。

「アラーム録画」の右にある [設定] ボタンをクリックすると、以下の画面が表示され、アラーム録画を行うカメラCHを設定できます。



設定したいカメラCHにチェックを入れ、[OK] ボタンをクリックします。

メモ

- 上記のアラーム録画設定画面では、「カメラ個別設定」で選択しているカメラCHにイベントが発生した場合、どのカメラCHの録画を行うかを設定します。

!!重要!!

- 「マネージャー」でログインしているレコーダーの設定や変更はできません。
- アラーム録画は「マネージャー」でログインしているときのみ動作します。

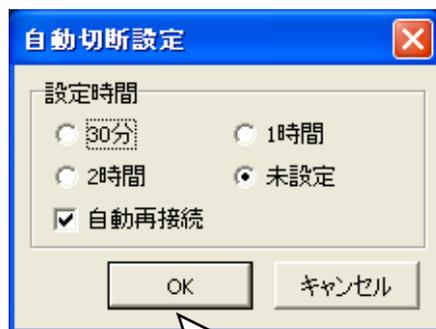
システム制御ボタンで行う操作（つづき）

自動切断設定を行う【モニターシステム設定－自動切断設定】

「マネージャー」のログイン中に、カメラのライブ画像の表示、録画画像の再生などの本ソフトウェアの操作を一定時間行わなかった場合、レコーダーとPCとの接続を自動的に切断するよう設定します。

画面1

ポップアップメニュー（※28ページ）の【モニターシステム設定】－【自動切断設定】を選択すると、自動切断設定画面が表示されます。



STEP2

STEP1

自動切断するまでの時間を以下から設定します。
30分／1時間／2時間／未設定

「自動再接続」にチェックを入れると、カメラのライブ画像を表示中に、ネットワークの異常などで一時的に接続が切断されても、5分以内に接続が確立すれば、自動的に再接続を行います。

STEP2

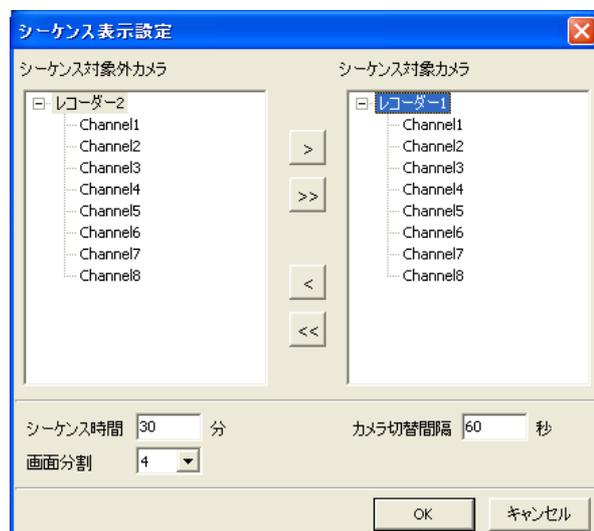
【OK】ボタンをクリックします。

シーケンス動作の設定を行う【モニターシステム設定－シーケンス表示設定】

シーケンス表示するカメラCHや画像の切り替え時間など、シーケンス動作に関する設定を行います。

画面1

ポップアップメニュー（※28ページ）の【モニターシステム設定】－【シーケンス表示設定】を選択すると、シーケンス表示設定画面が表示されます。



STEP2

STEP1

シーケンス表示するカメラCHや画像の切替時間などシーケンス動作を設定します。

設定項目については次ページをお読みください。

STEP2

設定したら、【OK】ボタンをクリックします。

設定項目について

■シーケンス対象外カメラ

■シーケンス対象カメラ

シーケンス対象から外す場合は、「シーケンス対象カメラ」からカメラCHを選択し、[<] ボタンをクリックします。「シーケンス対象カメラ」のすべてのカメラをシーケンス対象から外す場合は、[<<] ボタンをクリックします。

また逆に、「シーケンス対象外カメラ」からシーケンス表示するカメラCHを選択し、[>] ボタンをクリックしてカメラCHを設定します。選択したカメラCHは「シーケンス対象カメラ」に表示されます。

「シーケンス対象外カメラ」のすべてのカメラをシーケンス対象にする場合は [> >] ボタンをクリックします。

■シーケンス時間

シーケンス表示のトータル時間を0～999分で設定します。「0分」に設定すると、手動で停止するまでシーケンス表示されます。

お買い上げ時は30分に設定されています。

■カメラ切替間隔

次のカメラ画像を表示するまでの時間を15～999秒で設定します。お買い上げ時は60秒に設定されています。

■画面分割

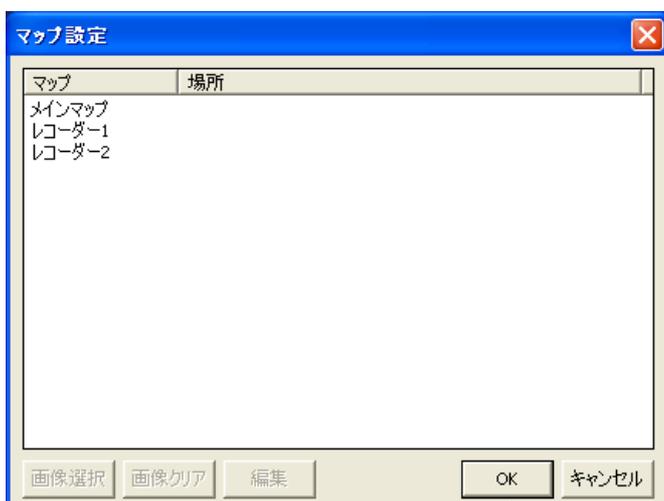
シーケンス表示する画面数（1／4／8画面）を選択します。

マップを設定する [モニターシステム設定－マップ設定]

レコーダーやカメラの構成など、モニタリングシステムを構成している各機器の配置図（マップ）を設定します。マップは遠隔でレコーダーを制御する場合、制御するレコーダーやカメラの配置や構成を視覚的にわかるように図にしたものです。

画面1

ポップアップメニュー（☰28ページ）の [モニターシステム設定] - [マップ設定] を選択すると、マップ設定画面が表示されます。



STEP3

STEP1

[画像選択] ボタンをクリックして、カメラやレコーダーを配置している場所の画像を設定します。例えば、レコーダーやカメラを配置している銀行やスーパー、パチンコ店の店内の画像などです。画像はビットマップ画像（bmp）のみ選択できます。

STEP2

[編集] ボタンをクリックして、STEP1で設定した背景の画像に合わせて、レコーダーやカメラのアイコンの位置を実際に配置している位置に移動します。

STEP3

[OK] ボタンをクリックします。

システム制御ボタンで行う操作（つづき）

カメラ画像に表示される情報を設定する [モニターシステム設定－表示設定]

カメラのライブ画像や録画画像に表示する情報（日時表示、レコーダー名、カメラ名、転送速度）を設定します。

画面1

ポップアップメニュー（28ページ）の [モニターシステム設定] - [表示設定] を選択すると、表示設定画面が表示されます。



STEP2

STEP1

表示したい項目にチェックを入れます。

日時：ライブ画像は現在日時、録画画像は録画日時が表示されます。

転送速度：画像データの転送速度が表示されます。

レコーダー名：レコーダーの名前が表示されます。

カメラ名：カメラの名前と画質が表示されます。

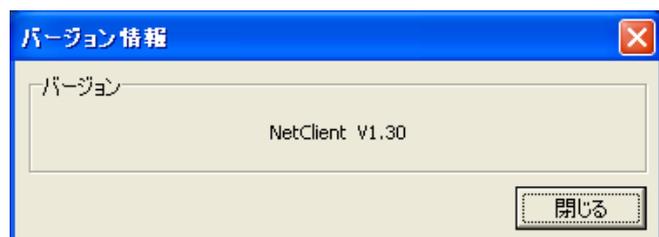
STEP2

設定したら、[OK] ボタンをクリックします。

本ソフトウェアのバージョン情報を確認する [モニターシステム設定－バージョン情報]

本ソフトウェアのバージョン情報を確認します。

28ページのポップアップメニューの [バージョン情報] を選択すると、以下の画面が表示されます。



モニターシステムの情報履歴を確認する [モニターシステムログ]

モニターシステムのシステムログ（システムの動作履歴）とイベントログ（アラーム発生履歴）を確認します。28ページのポップアップメニューの [モニターシステムログ] を選択すると、以下の画面が表示されます。システムログでは、レコーダーの設定変更と録画設定変更の履歴が表示されます。イベントログでは、イベントの発生日時と終了日時の履歴が表示されます。

No.	日時	イベント
1	2006-01-26 10:14:23	レコーダー1 レコーダー設定変更
2	2006-01-26 10:14:18	レコーダー1 レコーダー設定変更
3	2006-01-26 10:14:13	レコーダー1 レコーダー設定変更
4	2006-01-26 10:14:09	レコーダー1 レコーダー設定変更
5	2006-01-26 10:14:05	レコーダー1 レコーダー設定変更
6	2006-01-26 10:14:00	レコーダー1 レコーダー設定変更
7	2006-01-26 10:13:56	レコーダー1 レコーダー設定変更
8	2006-01-26 10:13:51	レコーダー1 レコーダー設定変更
9	2006-01-26 10:13:42	レコーダー1 レコーダー設定変更
10	2006-01-26 10:13:24	レコーダー1 レコーダー設定変更

<システムログ>

No.	日時	イベント
1	2006-02-14 17:12:59	レコーダー1 : 2 CH アラーム終了
2	2006-02-14 17:12:59	レコーダー1 : 2 CH アラーム発生
3	2006-02-14 17:12:58	レコーダー1 : 2 CH アラーム終了
4	2006-02-14 17:12:58	レコーダー1 : 2 CH アラーム発生
5	2006-02-14 17:12:51	レコーダー1 : 2 CH アラーム終了
6	2006-02-14 17:12:51	レコーダー1 : 2 CH アラーム発生
7	2006-02-14 17:12:48	レコーダー1 : 2 CH アラーム終了
8	2006-02-14 17:12:48	レコーダー1 : 2 CH アラーム発生
9	2006-02-14 17:12:47	レコーダー1 : 2 CH アラーム終了

<イベントログ>

メモ

- ログの保存件数に制限はありません。PCのHDDの容量がなくなるまで保存されます。

ローカル再生を行う

PCにダウンロードした録画画像や、PCに接続されている外付けHDDからコピーした録画画像などを再生します。[LocalPlayback起動] ボタンをクリックすると、LocalPlaybackが起動します。機能の詳細については38～40ページをお読みください。

外付けHDDを操作する

PCに接続された外付けHDDにコピーされたレコーダーの録画画像を再生したり、その録画画像をPCにコピーしたりします。

[USBClient起動] ボタンをクリックすると、USBClientが起動します。機能の詳細については41～44ページをお読みください。

録画画像をダウンロードする

レコーダーの録画画像をPCにダウンロードします。

ダウンロードする画像はカメラCH、録画開始日時・終了日時で絞り込むことができます。

画面1

[データダウンロード] ボタンをクリックすると、データダウンロード画面が表示されます。



STEP1

ダウンロードする録画画像の検索条件を設定します。「検索条件」ボックスの各項目を設定します。
カメラNo.：カメラCHを選択します。「All」を選択すると、すべてのカメラCHを設定できます。
開始日時：録画開始日時を入力します。
終了日時：録画終了日時を入力します。
イベントのみ：イベント録画（タイマー録画、端子入力録画、VMD録画）画像のみ検索したい場合はチェックを入れます。

STEP2

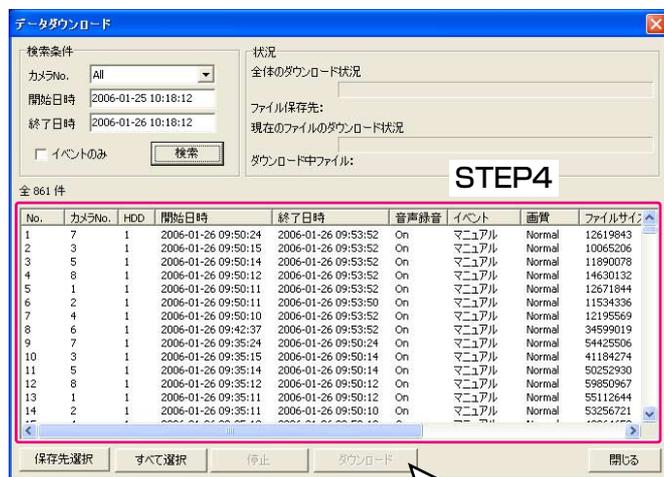
[検索] ボタンをクリックします。

メモ

- 最新5 000件までの録画画像のリストが表示されます。

画面2

検索結果が画面下にリストで表示されます。



STEP3

[保存先選択] ボタンをクリックして、フォルダの参照画面を表示し、ダウンロード先の場所を選択します。

STEP4

検索結果のリストからダウンロードしたい画像を選択します。リストすべての画像を選択したい場合は [すべて選択] ボタンをクリックします。

メモ

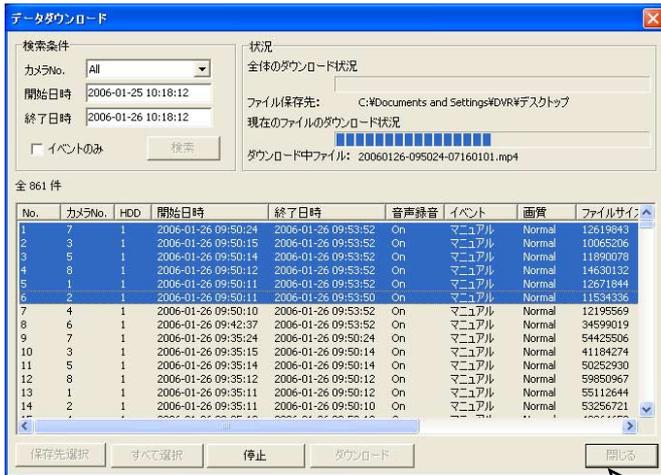
- Ctrlキーを押しながらクリックすると、複数の録画画像が選択できます。

STEP5

[ダウンロード] ボタンをクリックします。

画面3

ダウンロードが開始され、ダウンロードの状況が「状況」ボックスに表示されます。



STEP7

STEP6

「ダウンロードが終了しました」というメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。

STEP7

[閉じる] ボタンをクリックします。

!!重要!!

- ダウンロードする画像のファイル名は変更できません。
- レコーダーで再生中、コピー中の録画画像をダウンロードすることはできません。

システム機器構成（マップ）を表示する

レコーダーやカメラの構成など、モニタリングシステムを構成している各機器の配置図（マップ）を表示します。マップ上でカメラを接続（ライブ画接続）することもできます。

画面1

[マップ] ボタンをクリックすると、マップ画面が表示されます。



STEP1

メインマップに表示されているレコーダーのアイコンをダブルクリックします。

画面2

レコーダーに接続されているカメラが表示されます。



STEP2

 はライブ画接続しているカメラを示しています。
 はライブ画接続していないカメラを示しています。

 を右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。[接続] を選択すると、接続画面が表示され、パスワードを入力し、[接続] ボタンをクリックすると、ライブ画接続できます。接続中は接続の進行状態を示すプログレスバーが表示されます。

また、 を右クリックすると、ポップアップメニューが表示され、[切断] を選択すると、ライブ画接続を切断できます。

STEP3

レコーダーの表示画面に戻る場合は [閉じる] ボタンをクリックします。

マップ画面を閉じる場合は [終了] ボタンをクリックします。

カメラ画像をシーケンス表示する

複数のカメラ画像を切り替えて表示（シーケンス表示）します。

シーケンス表示するには、あらかじめシーケンス動作を設定しておく必要があります。シーケンス動作の設定については30ページをお読みください。

画面1

[シーケンス表示] ボタンをクリックすると、シーケンス表示画面が表示されます。



STEP1

表示されているレコーダーすべてにパスワードを入力します。

STEP2

[開始] ボタンをクリックします。
→シーケンス表示が開始されます。

STEP3

シーケンス表示を停止する場合は [シーケンス表示停止] ボタンをクリックします。シーケンス表示中は [シーケンス表示] ボタン  が [シーケンス表示停止] ボタン  に切り替わります。

!!重要!!

- シーケンス表示中にアラーム録画が開始されると、シーケンス表示は一時停止します。アラーム録画が終了すると、シーケンス表示は再開します。
- レコーダーの接続にエラーが発生すると、シーケンス表示は停止します。

音声通話する

同じモニターシステム内において、「マネージャー」でログインしているレコーダーと、PC間で音声通話します。音声通話するには、PCとレコーダーの両方にマイクとスピーカーが必要になります。

[通話] ボタンをクリックすると、通話が可能です。

通話を終了するには [通話終了] ボタン  をクリックします。通話中は [通話] ボタン  が [通話終了] ボタン  に切り替わります。

!!重要!!

- 通話の音量はPCの音声調節で行います。
- レコーダーで録画画像を再生中は通話することはできません。

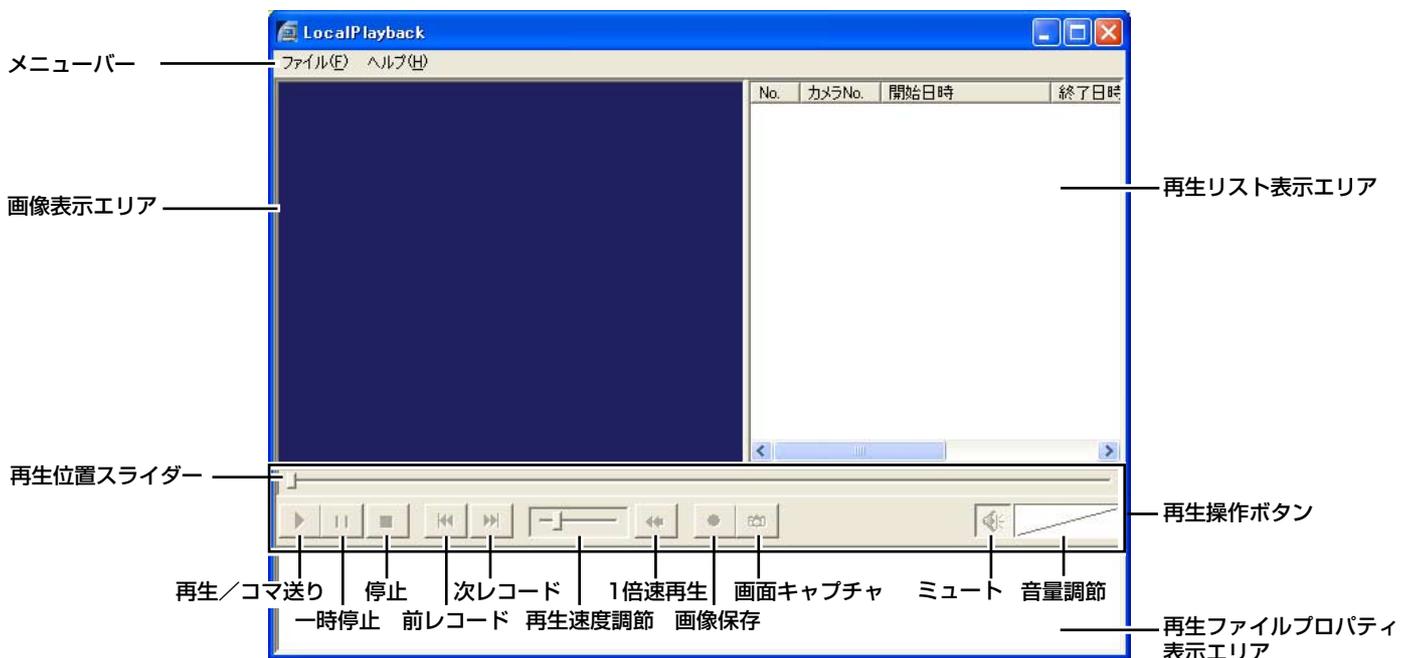
ローカル再生を行う [LocalPlayback]

PCにダウンロードした録画画像や、PCに接続されている外付けHDDからコピーした録画画像などを検索・再生します。

LocalPlaybackを起動する

スタートメニューの [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [WJ-RT208 Monitoring System] - [LocalPlayback] を選択するか、Netclient操作画面のシステム制御ボタンにある [LocalPlayback起動] ボタンをクリックします。

→LocalPlaybackが起動し、LocalPlayback画面（以下参照）が表示されます。



■ [ファイル] メニュー

以下のメニューが表示されます。

- 開く : ファイルを開きます (☞39ページ)。
- ファイル検索 : 画像を検索します。選択すると、ファイル検索画面が表示されます (☞40ページ)。
- 全画面表示 : 画像をフルスクリーンで表示します。
- 終了 : LocalPlaybackを終了します。

■ [ヘルプ] メニュー

LocalPlaybackのバージョン情報を表示します。

■ 画像表示エリア

画像が再生表示されます。

■ 再生リスト表示エリア

再生する画像をリストで表示します。画像の以下の情報が表示されます。

カメラCH、録画開始日時、録画終了日時、録画イベント、画質、音声の有無

■ 再生操作ボタン

再生に関する以下の操作が行えます。

再生位置調節（再生位置スライダーをスライドさせて再生位置を調節します）、再生、一時停止、停止、前レコード、次レコード、再生速度調節、1倍速再生、再生画像の保存、画面キャプチャ、ミュート、音量調節。一時停止中に [再生/コマ送り] ボタンをクリックすると、コマ送りできます。

■ 再生ファイルプロパティ表示エリア

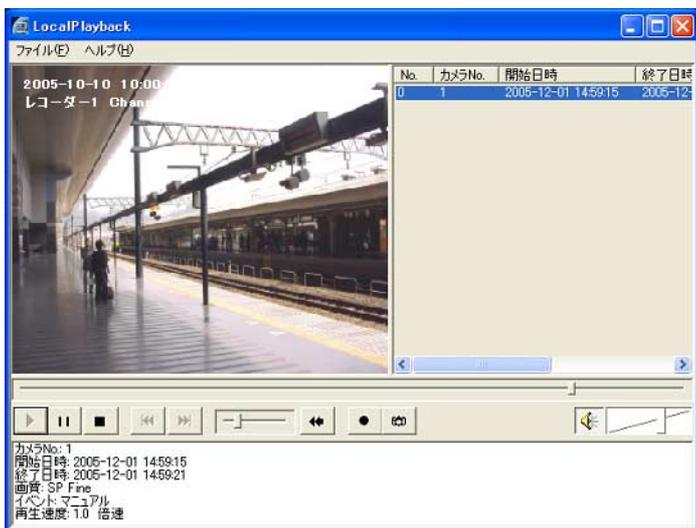
再生している画像ファイルの以下の情報を表示します。カメラCH、録画開始時間、録画終了時間、画質、録画イベント、再生速度

画像を再生する

画像を再生します。

[ファイル] - [開く] を選択すると、ファイル選択画面が表示されます。再生したファイルを選択し、開きます。選択したファイルが画像表示エリアに表示されます。

再生中は再生操作ボタンを使って操作します。再生操作ボタンで行える操作については38ページをお読みください。また、[ファイル] - [全画面表示] を選択するか、画像をダブルクリックすると、再生画像をフルスクリーンで表示することもできます。フルスクリーンを解除する場合は、フルスクリーンの画像をダブルクリックします。



画像を検索して再生する

画像を検索して再生します。

!! 重要 !!

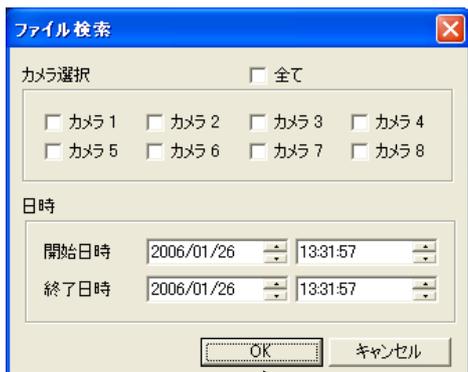
- 検索できる画像はWJ-RT208Monitoring SystemがインストールされているフォルダのMPEGフォルダ内に保存されている画像のみです。

<次ページに続く>

ローカル再生を行う（つづき）

画面1

[ファイル] - [ファイル検索] を選択すると、ファイル検索画面が表示されます。



STEP2

STEP1

検索条件を設定します。

■カメラ選択

検索したいカメラCHにチェックを入れます。すべてのカメラCHを検索したい場合は「全て」にチェックを入れます。

■日時

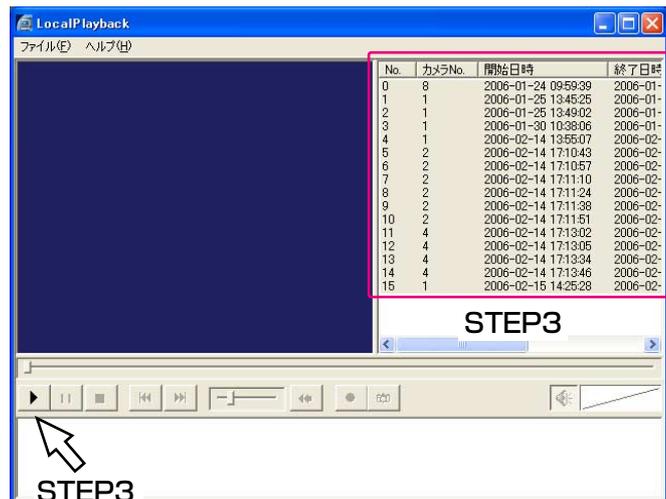
検索したい録画日時の範囲を設定します。開始日時、終了日時に日時を設定します。

STEP2

[OK] ボタンをクリックします。

画面2

検索結果が再生リスト表示エリアにリストで表示されます。



STEP3

再生したいファイルを選択して、[再生] ボタンをクリックします。

→再生が始まります。

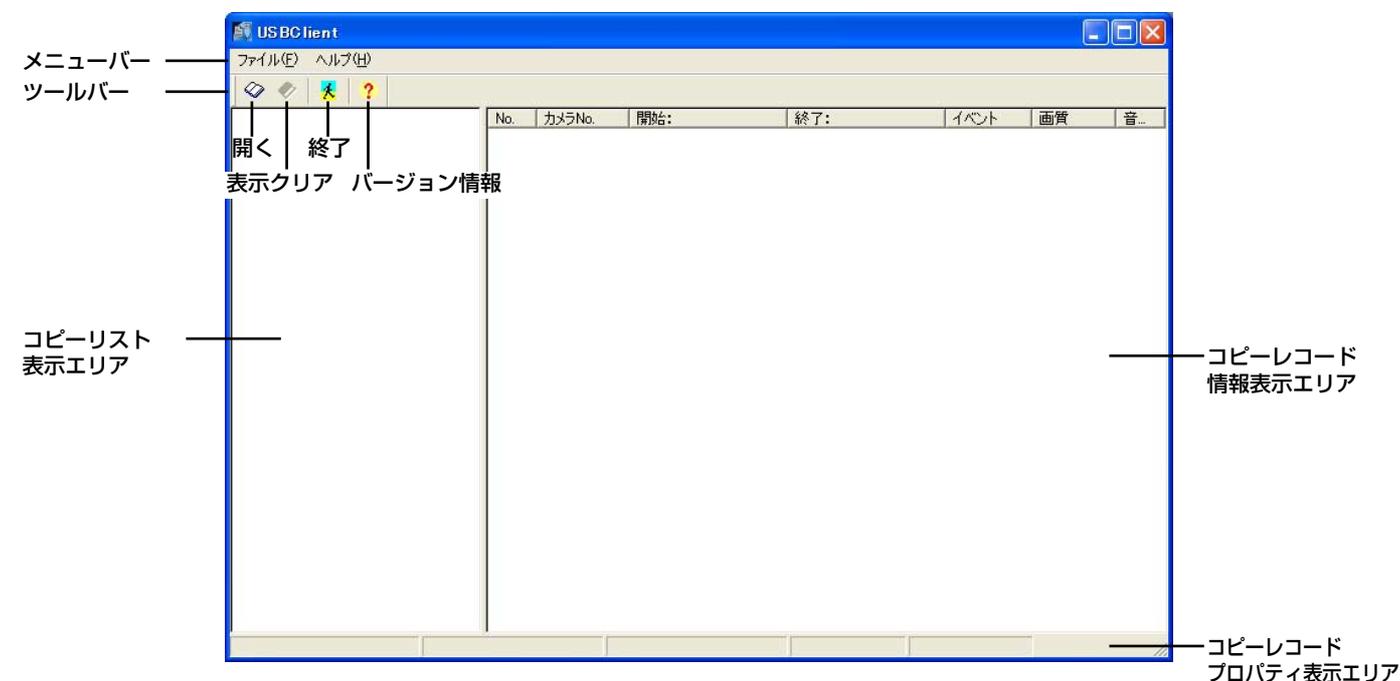
外付けHDDを操作する [USBClient]

PCに接続された外付けHDDに保存されたレコーダーの録画画像（コピーレコード）を再生したり、その録画画像をPCにコピーしたりします。

USBClientを起動する

スタートメニューの [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [WJ-RT208 Monitoring System] - [USBClient] を選択するか、Netclient操作画面のシステム制御ボタンにある [USBClient起動] ボタンをクリックします。

→USBClientが起動し、USBClient画面（以下参照）が表示されます。



■ [ファイル] メニュー

以下のメニューが表示されます。

- 開く : 外付けHDDを選択し、その外付けHDDに保存されているコピーレコードを開きます (42ページ)。
- 表示クリア : コピーレコードの表示をクリアにします。
- データ消去 : 選択した外付けHDDに保存されているコピーレコードをすべて削除します。
- 終了 : USBClientを終了します。

■ [ヘルプ] メニュー

USBClientのバージョン情報を表示します。

■ ツールバー

各ボタンについては [ファイル] メニュー、[ヘルプ] メニューをお読みください。

■ コピーリスト表示エリア

選択した外付けHDDに保存されているコピーリストを表示します。1回のコピーで1つのリストになります。

■ コピーレコード情報表示エリア

選択したコピーリスト内のコピーレコードの以下の情報が表示されます。

カメラCH、録画開始日時、録画終了日時、録画イベント、画質、音声の有無

■ コピーレコードプロパティ表示エリア

コピーレコードの以下の情報を表示します。

コピー日時、コピー検索開始日時（コピー対象とする画像の日時範囲の開始日時）、コピー検索終了日時（コピー対象とする画像の日時範囲の終了日時）、ファイル数、サイズ

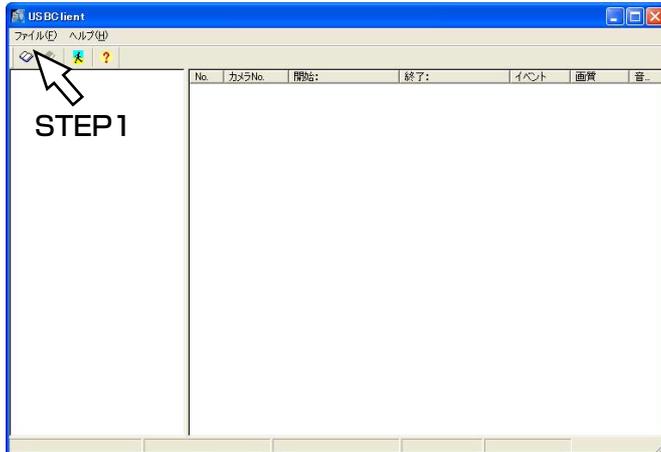
外付けHDDを操作する（つづき）

コピーレコードをコピーする

外付けHDDに保存された録画画像（コピーレコード）をPCにコピーします。

画面1

USBClientを起動し、USBClient画面を表示します。



STEP1

[ファイル] - [開く] を選択します。

画面2

ディスク選択画面が表示されます。

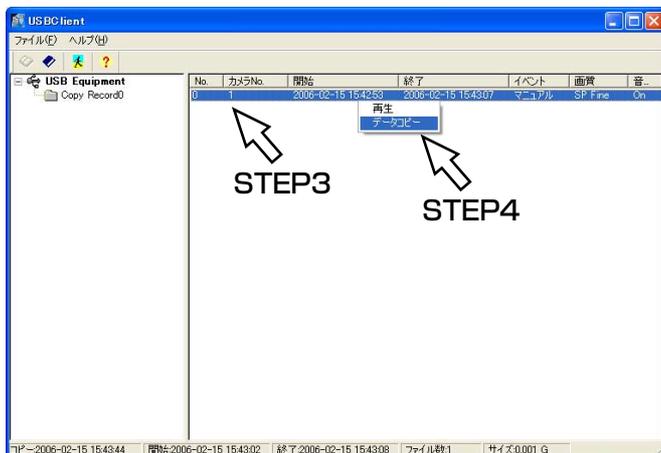


STEP2

外付けHDDを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

画面3

USBClient画面に録画画像のコピーレコードが表示されます。



STEP3

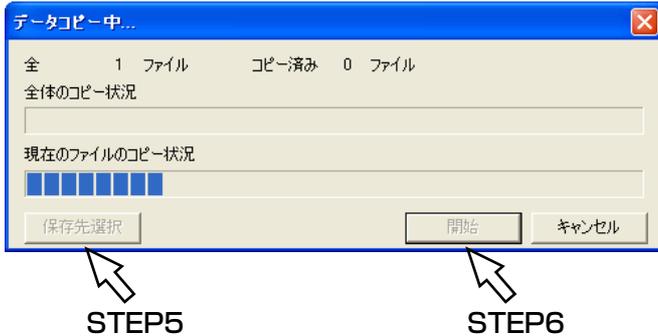
コピーしたいレコードを選択します。
複数のレコードを選択したい場合は、[Ctrl] キーを押しながらレコードをクリックします。

STEP4

選択したレコード上で右クリックし、表示されるポップアップメニューから [データコピー] を選択します。

画面4

データコピーの状況を示す画面が表示されます。



STEP5

[保存先選択] ボタンをクリックして、コピー先の場所を選択します。

メモ

- 保存先を選択せずに、コピーすることもできます。その場合、WJ-RT208Monitoring SystemがインストールされているフォルダのMPEGフォルダ内にコピーされます。

STEP6

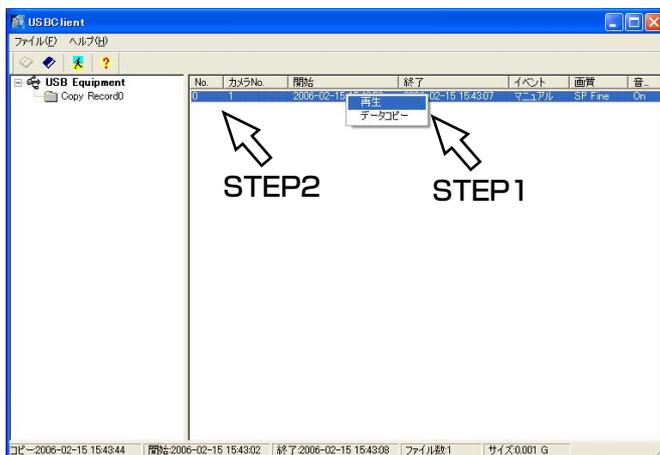
[開始] ボタンをクリックします。
→コピーが開始され、コピーの状況が画面に表示されます。
コピーが完了すると、コピー完了を知らせるメッセージが表示されます。

コピーレコードを再生する

外付けHDDにコピーされた録画画像（コピーレコード）を再生します。

画面1

USBClient画面に録画画像のコピーレコードを表示します（42ページ）



STEP1

再生したいレコードを選択します。

!!重要!!

- 複数のレコードを選択することはできません。

STEP2

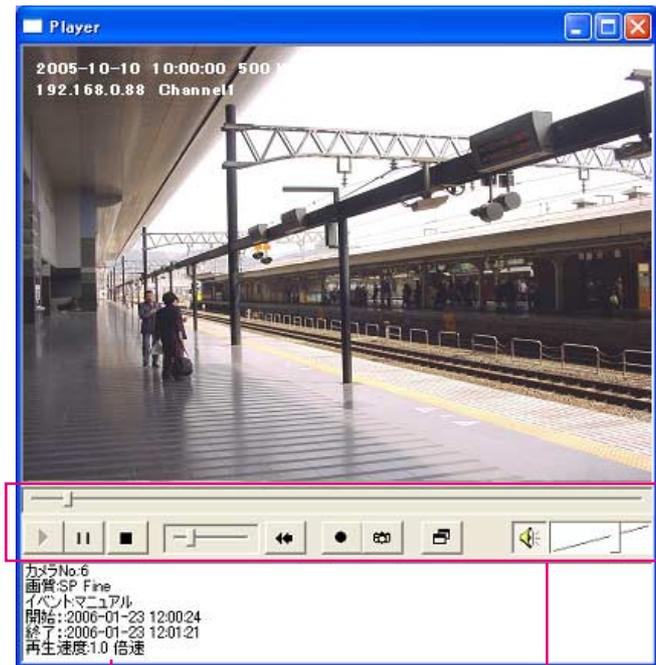
選択したレコード上で右クリックし、表示されるポップアップメニューから [再生] を選択します。

<次ページに続く>

外付けHDDを操作する（つづき）

画面2

Player画面が表示されます。



再生ファイル
プロパティ
表示エリア

再生操作ボタン

STEP3

[再生] ボタンをクリックすると、コピーレコードの画像が再生され、再生操作ボタンを使って各操作が行えます。

再生操作ボタンを使ってできる操作については、38ページをお読みください。

また、再生ファイルプロパティ表示エリアでは、再生している画像ファイルの以下の情報が表示されます。

- カメラCH
- 画質
- 録画イベント
- 録画開始時間
- 録画終了時間
- 再生速度

!!重要!!

- 再生中は外付けHDDとのデータの読みとり速度の関係で、再生中の操作に対する動作が遅れることがあります。

メモ

- 再生中の画像をダブルクリックすると、フルスクリーン表示されます。再度ダブルクリックすると、元の大きさに戻ります。

アラームセンターを設定する [AlarmCenter]

本ソフトウェアをインストールしたPCをモニタリングシステム全体のアラームセンターとして設定し操作することができます。アラームセンターとして設定すると、複数のレコーダーのアラーム情報を監視することができます。レコーダーがアラーム情報をPCに通知するためのレコーダー側の設定については、レコーダー付属の取扱説明書をお読みください。

// 重要 //

- Windows XP SP2がインストールされたPCを使用する場合、NetClientソフトウェアを起動すると、以下のメッセージを含むセキュリティ警告の画面が表示されることがあります。
「コンピュータを保護するため、このプログラムの機能の一部がWindowsファイアウォールでブロックされています。」
この場合 [ブロックを解除する] ボタンをクリックしてください。間違えて、[ブロックする] ボタンをクリックしてしまったときは、以下の操作を行います。
 1. [コントロールパネル] - [セキュリティセンター] を選択する。
 2. [Windows ファイアウォール] を選択する。
 3. [例外] タブをクリックし、AlarmCenterがチェックされているかどうかを確認する。
 4. チェックされていたら、[OK] ボタンをクリックする。上記操作を行うことによって、他のアプリケーションやセキュリティレベルに影響を受けることはありません。

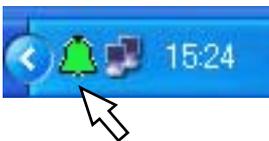
AlarmCenterを起動する

STEP1

スタートメニューの [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [WJ-RT208 Monitoring System] - [AlarmCenter] を選択します。

画面1

AlarmCenterのアイコン  がWindows画面のシステムタスクトレイに追加されます。



STEP2

AlarmCenterのアイコン  を左クリックし、ポップアップメニューから [開始] を選択します。

開始
アラーム情報表示
設定
終了

→ AlarmCenterが起動します。アラーム情報が受信可能になり、ポップアップメニューの [アラーム情報表示] が選択可能になります。
また、アラーム情報を受信すると  が  (赤色に点滅表示) します。

アラームセンターのポート番号を設定する

アラームセンターのポート番号を設定します。

画面1

AlarmCenterを起動します。AlarmCenterのアイコン  を左クリックし、ポップアップメニューを表示します。



STEP1

ポップアップメニューから [設定] を選択します。

画面2

AlarmCenter設定画面が表示されます。



STEP2

ポート番号など各種設定を行います。

■ポート番号

ポート番号を設定します。

お買い上げ時は「4000」に設定されています。

■スクロールメッセージ数

アラーム情報が受信されると、AlarmCenter画面 (47ページ) の上部にアラーム情報がスクロール表示されます。この設定では、過去何回分のアラーム情報をスクロール表示するかを1~20で設定します。

■プログラム実行時にサービス開始

チェックを入れると、AlarmCenterを起動したとき、自動的にサービスが開始するように設定されます。(AlarmCenter起動後、ポップアップメニューで [開始] を選択する必要がなくなります。)

STEP3

[OK] ボタンをクリックします。

→AlarmCenter設定画面が閉じます。

アラームセンター情報を確認する

イベントが発生したレコーダーのアラーム情報や接続しているカメラ情報、ユーザーの情報、レコーダーのHDDの情報などを確認できます。

!!重要!!

- アラームセンターで、カメラ情報、ユーザーの情報、レコーダーのHDDの情報を確認するには、NetClientでそのレコーダーに「マネージャー」でログインするか、SetRecorderTimeを起動しログインしておく必要があります。

画面1

AlarmCenterを起動します。AlarmCenterのアイコンを左クリックし、ポップアップメニューを表示します。



STEP1

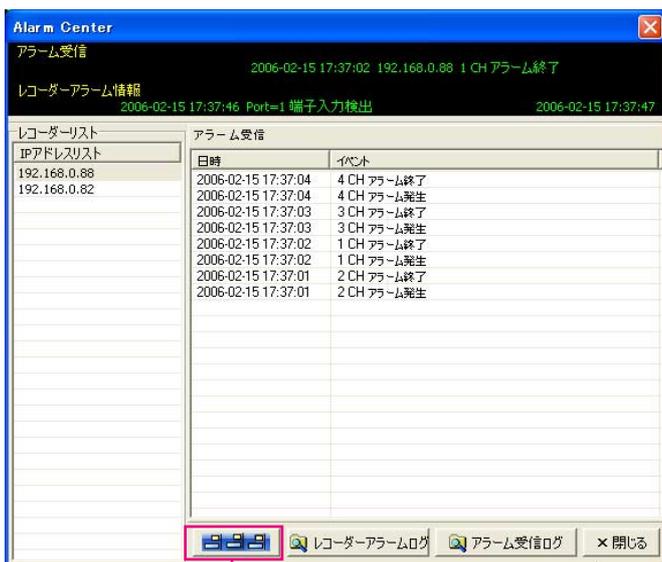
ポップアップメニューから [開始] を選択します。

STEP2

ポップアップメニューから [アラーム情報表示] を選択します。

画面2

AlarmCenter画面が表示されます。



情報表示切替ボタン

STEP4

STEP3

通信可能なレコーダーのリストが画面左部に表示されます。アラーム情報を見たいレコーダーを選択すると、画面右にそのレコーダーで発生したアラーム情報が表示されます。

また、アラーム情報を受信すると、画面上部にアラーム受信情報 (☞次ページ)、レコーダーアラーム情報 (☞次ページ) が右から左へスクロール表示されます。

アラーム情報の下にある各ボタンを使って、各種アラーム情報を確認できます。各ボタンについては次ページをお読みください。

STEP4

[閉じる] ボタンをクリックします。
→AlarmCenter画面が閉じます。

アラームセンターを設定する（つづき）

■情報表示切替ボタン

ボタンをクリックすると、以下のポップアップメニューが表示され、各情報を確認できます。

- アラーム受信情報
 - レコーダーアラーム情報
 - カメラ情報
 - 接続ユーザー情報
 - ディスク情報

アラーム受信情報：

選択すると、画面右にアラーム発生日時と終了日時が表示されます（Netclient操作画面のレコーダー情報エリアに表示される内容と同じ情報が表示されます。詳しくは11ページをお読みください）。

レコーダーアラーム情報：

選択すると、画面右にレコーダーのアラーム情報の履歴（アラームの種類やアラームが発生したカメラCH、アラーム発生日時など）が表示されます（Netclient操作画面のレコーダー情報エリアに表示される内容と同じ情報が表示されます。詳しくは11ページをお読みください）。

カメラ情報：

選択すると、画面右にカメラの状態が表示されます。表示される情報はNetclient操作画面のレコーダー情報エリアに表示される内容と同じです。詳しくは11ページをお読みください。

接続ユーザー情報：

選択すると、画面右にユーザー情報が表示されます。表示される情報はNetclient操作画面のレコーダー情報エリアに表示される内容と同じです。詳しくは11ページをお読みください。

ディスク情報：

レコーダーのHDD容量と使用割合（%）が表示されます（Netclient操作画面のレコーダー情報エリアに表示される内容と同じ情報が表示されます。詳しくは11ページをお読みください）。

■【レコーダーアラームログ】ボタン

アラームセンターでアラーム情報を受信すると、レコーダーアラーム情報は自動的にPCのHDDに保存されます。【レコーダーアラームログ】ボタンをクリックすると、レコーダーのアラーム情報の履歴を確認できます。

■【アラーム受信ログ】ボタン

アラームセンターでアラーム情報を受信すると、アラーム受信情報は自動的にPCのHDDに保存されます。【アラーム受信ログ】ボタンをクリックすると、レコーダーのアラーム受信情報の履歴を確認できます。

AlarmCenterを終了する

AlarmCenterを終了します。

AlarmCenterのアイコン  を左クリックし、ポップアップメニューから【終了】を選択します。

- 停止
- アラーム情報表示

- 設定

- 終了

レコーダーの時計を同期させる [SetRecorderTime]

同じモニタリングシステム上にある複数台のレコーダーの日時をPCの日時に合わせます。

SetRecorderTimeを起動する

SetRecorderTimeを起動して、時刻の同期を合わせます。

画面1

SetRecorderTimeのアイコン  がWindows画面のシステムタスクトレイに追加されます。



STEP1

スタートメニューの [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [WJ-RT208 Monitoring System] - [SetRecorderTime] を選択します。

STEP2

SetRecorderTimeのアイコン  を左クリックし、ポップアップメニューから [開始] を選択します。

開始 
設定 
終了 

画面2

パスワードの入力画面が表示されます。



STEP3

表示されているレコーダーすべてに「マネージャー」のパスワードを入力し、[開始] ボタンをクリックします。
→SetRecorderTimeが起動し時刻同期を行います。

時刻同期が開始されると、ポップアップメニューの [開始] の左側に ✓が表示されます。

✓ 開始 
設定 
終了 

STEP4

時刻同期を終了するには、再度ポップアップメニューから [開始] を選択します。

レコーダーの時計を同期させる [SetRecorderTime] (つづき)

//重要!!

- 「マネージャー」のパスワードを入力しSetRecorderTimeを開始すると、すぐに同期を合わせ、レコーダーの時刻が修正されます。対象となるレコーダーは「レコーダー登録」(☞28ページ)で登録されているすべてのレコーダーです。
- NetClientで「マネージャー」としてログインしている場合、同期合わせは行われません。時刻の同期を取るには、NetClientで「マネージャー」でログアウトして、SetRecorderTimeでログインし直す必要があります。

時刻合わせの間隔を設定する

レコーダーの時計の同期を合わせる周期を設定します。

画面1

SetRecorderTimeを起動します。SetRecorderTimeのアイコンを左クリックし、ポップアップメニューを表示します。



STEP1

ポップアップメニューから「設定」を選択します。

画面2

SetRecorderTime設定画面が表示されます。



STEP2

同期を合わせる周期を以下から選択します。
30分／1時間／2時間／5時間

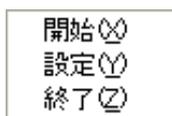
STEP3

[OK] ボタンをクリックします。
→周期が設定され、SetRecorderTime設定画面が閉じます。

SetRecorderTimeを終了する

SetRecorderTimeを終了します。

SetRecorderTimeのアイコンを左クリックし、ポップアップメニューから「終了」を選択します。



故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときやわからないとき、この表以外の症状のときまたは設定・工事に関する内容のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
<p>ネットワーク接続を確立できない 設定できない レコーダーを操作できない</p>	<p>▶ ●ネットワークポートに10BASE-Tまたは100BASE-TXケーブルが接続されていますか？ 接続されているか、確認してください。</p>	-
	<p>▶ ●ネットワークポートの接続表示ランプが点灯していますか？点灯していない場合は、LANに接続されていないか、接続先のネットワークが正常に動作していません。 接続表示ランプが点灯していることを確認してください。点灯していない場合はシステムの管理者にご確認ください。</p>	-
	<p>▶ ●有効なIPアドレスが設定されていますか？ システムの管理者にご確認ください。</p>	28
	<p>▶ ●設定したIPアドレスが他の機器と重複していませんか？ システムの管理者にご確認ください。</p>	-
	<p>▶ ●設定したIPアドレスと設置先のネットワーク/サブネットマスクが矛盾していませんか？ 同一サブネット内に本機とクライアント（PC）が接続されている場合、本機とクライアント（PC）のIPアドレスは共通のサブネットに設定されていますか？ また、ブラウザで「プロキシサーバーを使う」設定になっていませんか？同一サブネット内の本機にアクセスする場合は、本機のアドレスを「プロキシから外す」設定にすることをおすすめします。</p>	-
<p>▶ 画像の更新が遅い、もしくは更新されない</p>	<p>▶ ●データの量によっては、特定のカメラCHからの画像を表示するのに問題がある場合があります。</p>	-
	<p>▶ ●お使いのPCがシステム要件を満たしていない場合、画像表示がうまくいかない場合があります。</p>	3

その他

故障かな!? (つづき)

その他

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
音声が途切れる	● ネットワークのトラフィックによって音声が途切れる場合があります。	—
	● お使いのPCがシステム要件を満たしていない場合、音声が途切れる場合があります。	3
システム制御ボタンが使用できない	● 「マネージャー」のログイン状態を確認してください。	—
ダウンロードしたレコードを再生できない	● 再生する場合は、本ソフトウェア内のLocalPlaybackを使用してください。	38
通常の再生に失敗する	● ネットワークのトラフィックが混雑しているか、配信帯域が狭くなっています。	—

松下電器産業株式会社

セキュリティ本部

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410